

引用文献

1) 小林光恵. あなたのエンゼルケア見直してみ

ませんか? “死後のケア” で必要なこと.

エキスパートナース 2009; 25 (15) : 38-73.

手術器械定数表による器械カウントの徹底

手術室 佐野 寛子 山田 ちな美
渡辺 喜久美 吉田 ななえ

I. はじめに

当手術室では手術に使用する全ての器械を看護師が組んでいる。以前はクリアケースに入った器械定数表を見ながら器械を組んでおり、体内遺残の可能性のある手術のみ、全ての器械名と数を記載した器械定数表を器械と共に入れていた。体内遺残の可能性の低い手術には手書きの小さな器械定数表を入れていた。しかし今回手術終了後に通常では体内に入るとは考えられないような器械の紛失があった。紛失の原因として閉創時の器械カウントに問題はなく患者の体内遺残も認めなかった。そこで手術終了後にリネンに紛れて廃棄された事が考えられた。今回の結果を踏まえ器械定数表のあり方について検討し、器械定数表の見直し及び作成を行い、全ての手術の器械内に器械定数表を入れてカウントを徹底する等の業務改善を4ヶ月行った。

II. 目的

1. 手術に使う全ての器械内に器械定数表を入れてカウントを徹底する
2. 紛失器械をなくす

III. 方法

従来使用していた器械定数表を見直し、医師と連携し術式に応じた新たな器械定数表を作成。全ての手術器械と共に入れた。

IV. 結果

外科30件・整形外科28件・産婦人科20件・心臓血管外科13件・泌尿器科12件・脳神経外科10件・耳鼻咽喉科20件・形成外科7件・眼科4件、合計144件の器械定数表を見直し、作成した。

手術終了後の器械カウントまで徹底されて行わ

れるようになった。器械定数表を使用した4ヶ月間、器械の紛失は1件もなかった。

V. 考察

手術中、閉創が近づくと器械出し看護師は、器械出し介助や医師の指示への対応などと同時進行で器械カウントを行っている為、このような状況では、カウントミスなどのエラーを起こしやすくなる。しかし器械定数表がある事により、手術中の器械カウントの確認にかかる時間の短縮と確実性が認められた。また手術終了後のリネン廃棄時や器械片付け時の最終カウントに対する意識も高まり、紛失器械がなくなったのではないかと考えられる。更に、今回器械定数表を使用した利点として、手術中の器械出し看護師交代時に、口頭のみでなく紙面上で申し送りができるようになった為、確実に器械カウントが行えるようになった。そして、新人看護師が器械定数表と器械を一致させる事で器械の名称を認識出来るようになった。また、術式別の器械定数表を増やした事で(例: 大腿骨を、ITSTとCHSに分けたり、肩と鎖骨を別にする等)器械を組む際の時間短縮と看護師全員が共通した器械を組めるようになった等あげられた。

VI. 終わりに

今回、業務改善を行う事で看護師だけでなく医師にも協力を得られるようになり、器械カウントが徹底できるようになった。手術室の業務において、器械の管理は重要な業務の一つである。今回の結果を踏まえ、器械紛失を確実になくすために更なる器械定数表の検討等を行っている。今後も継続して器械定数表を使用し器械カウントを徹底させていきたい。